

ざしきわらし

〒028-6193

岩手県二戸市堀野字大川原毛 38 番地 2

TEL 0195 (23) 2191

FAX 0195 (23) 2834

URL <http://www.ninohe-hp.net/>

編集発行

岩手県立二戸病院 広報委員会

「インフルエンザ警戒せよ」

院長 鈴木 彰



新しい年を迎え、寒さが厳しさを増してまいりました。例年より早く押し寄せてきている感じがします。年末から年始にかけて忙しい日々が続いていると思いますが、それと共に増えてくるのがインフルエンザです。

インフルエンザは御存じのようにインフルエンザウィルスによる感染症です。感染症ですから、感染する経路を遮断すると防ぐことができます。個人レベルでは手洗い、うがい、マスクなどです。また、医学的にはワクチンを接種し、免疫力を高めます。そして、人から人へ感染しますので、人が集まる所を避ける等の手段があります。しかし、子供たちは学校があり、1人が持ち込むと集団で感染する危険性が高くなり、時々感染の拡がりを抑えるために学校閉鎖や学年閉鎖等が行われます。

感染者の数を見ていると、学校が休みになると感染者数が減り、学校が始まると途端に急増する傾向が見られています。大人は子供からもらうことが多いようです。感染を広めないために、子供であれ、大人であれおかしいと思ったら学校や職場に行かずに、すぐ医療機関を受診し、早く確定診断を受けるようにしてください。インフルエンザであればちゃんと直してから学校や職場に復帰してください。無理して行くと、周りの人に広める事になり、周りの迷惑になります。

また、マスクの事に触れましたが、この時期になると予防のためにマスクをしている方が増えるのは良いのですが、咳をしている人がマスクをしないままで見受けられます。感染を防ぐ立場からいうと、まず咳をする人がマスクをするという事が一番効率よく感染を防ぎますので、必ずマスクをしてほしいと思います。これはWHOの感染部門で咳エチケットと呼ばれ必ずするようにと指導されています。

インフルエンザは一般的に健康な人では感染しても不快な思いはしますが、そんなに重篤にはなりません。しかし、免疫力や体力が落ちている人が感染すると、重篤な状態になり、命取りになる場合もあります。病院の中には病気や手術を受けた人、高齢者、新生児等々免疫力や体力の落ちた方々がたくさんいます。その人たちが外から持ち込まれたインフルエンザにさらされると、インフルエンザのために命を落としかねません。そのため病院では入口での手指消毒やマスク着用、そして学校閉鎖ならぬ面会制限や面会禁止の処置をとる事があります。入院患者さんを守るためですので、ぜひご理解の程よろしく願います。

結核のお話（Q&A）

臨床検査科



長引く咳には
要注意！！

結核は、決して過去の病気ではありません。今でも年間2万人以上の新しい患者が発生し、年間2000人以上の人が命を落としている日本の重大な感染症なのです。

Q1 結核ってなあに？どうやってかかるの？

A 結核菌という細菌に感染することによりおこる病気です。結核を発病している人がせきやくしゃみをする、結核菌が空気中に飛び散り、それを他の人が吸い込むことにより感染します（**空気感染**）。

Q2 どんな症状？

A 初期の症状はカゼと似ていますが、**せき、たん、発熱**などの症状が**長く続く（2週間以上）**のが特徴です。この他にも、痰に血が混じる、食欲が減る、体重が減る、寝汗をかくなどの症状もあります。

Q3 どういう人がかかりやすいの？

A **免疫力が弱まっている人**（お年寄り、過労、栄養不良、他の病気による体力低下）は注意が必要です。また、学校や事業所、福祉施設などでの**集団感染**が増加しています。

Q4 結核と診断されたら・・・治療は？

A 通常3～4種類の薬剤を、6か月から1年服用します。また、薬を医師の指示通りに飲めば治りますが、せきが止まったからといって勝手に薬の飲み方を不規則にしたり、飲むのをやめてしまったりすると、**結核菌が耐性を持ち、薬の効かない菌**が出来てしまいます。**結核と診断されたら最後まで飲み続けましょう。**

Q5 結核を予防するには？

A 免疫力が低下しないように規則正しい生活を心がけましょう。栄養バランスの良い食事と十分な睡眠、適度な運動などが大切です。また、職場や区市町村で行われる**健康診断（胸部レントゲン検査）を年1回は受ける**ようにしましょう。

また、乳幼児への結核予防には **BCG 接種**が有用です。

最後に、変だな！と思ったらすぐに医師に見てもらうことが大切です！
治療が遅れることにより、多くの人にうつしたり、手遅れにならないためにも、早めの受診をお願いします。



臨床工学技士の略称

CEセンター

二戸病院には、3名の臨床工学技士が在籍しています。そして、二戸圏域の基幹病院として一戸病院・軽米病院への業務応援を行い地域医療に貢献しています。

現在、世間一般的に臨床工学技士に対する略称は、ME（Medical Engineer）とCE（Clinical Engineer）の2つが存在します。県立病院においても、病院ごとに異なりましたがCEへ統一する方向性となり、当院では、平成26年の7月1日より、臨床工学技士の略称をMEからCEへ変更しました。それに伴い、MEセンターもCEセンターへ呼称変更となりました。

MEという略称については、1987年に臨床工学技士法が制定される以前にさかのぼり、医療施設において医療機器管理、操作等の業務を行う場合、医療機器に関する専門知識を有する国家資格が無かったため、日本生体医工学会が1979年より開始している「医療機器の安全、適正な使用と管理に関する知識・技術を習得させるためのME技術講習会」の受講と、これらに関する能力を検定する「ME技術実力検定試験」の合格が一つの目安とされました。そのため、この資格を持っている技術者をMEと呼び、広くMEという略称が使用される一つの要因となりました。

また、CEという略称については、臨床工学技士法が制定される際、より臨床に詳しい知識を有し、なおかつ工学系の知識も有した技術者を意識した資格としたため、資格名が医療工学技士ではなく臨床工学技士となり、直訳すればClinical（臨床）Engineer（工学技士）となりました。このため、職能団体である公益法人日本臨床工学技士会もJapan Association for Clinical Engineers（JACE）として活動を続けています。

まだまだ、CEという略称になじみが薄く、認知度が低いためMEとCEが混同している現状ではありますが皆様にご理解いただき浸透できればと思います。今後もチーム医療の推進に尽力したいと思います。

♪クリスマスコンサート♪

平成26年12月9日ホスピタルストリートにてクリスマスコンサートを開催しました。二戸高看の生徒・近隣の病院関係者と一緒に練習の成果を発揮できたと思います。



患者さんも楽しんでくれて私たちもうれしく思います。今後もより良いコンサートになる様に努力していきたいと思います。



リハビリテーション便り

リハビリテーション科

いつまでも そのままで 泣いたり 笑ったりできるように
曇りがちな その空を 一面晴れ間に できるように
と思いながら 一日が始まる。



本年度も当科では二戸地域の広域支援センター病院の事業として、7月12日（土）当院会議室にて、前期の研修会を開催した。

テーマは「介護現場を面白くしよう～実技を中心とした、明日から使える介護技術のヒント」講師は、介護老人保健施設 ふれんどりー岩泉の主任理学療法士 三上先生を招き、講義にとどまらず、より実務に使えるように工夫して頂き、実技の時間を多くしてもらった。

受講者の反応も良く、普段、困っていることに対して、適切なアドバイスがなされた。

今後もリハビリ資源の少ないこの圏域において、支えている介護施設関係の方々達にも、学んで頂けるような研修会を続けて参りたいと思う。

当院と施設間の連携、一体感が、患者さんの笑顔につながりますようにと祈り一日が終わる。

入院患者さんへの面会禁止について

インフルエンザが大流行しており、入院患者さんへの感染予防策として、患者さんへの面会を禁止しております。

面会者から患者さんに感染することで重症化するおそれがあること、さらには面会者ご自身が感染し、感染拡大を引き起こす可能性があるための措置ですので、ご協力をお願いします。

※ご親戚・知人の方々へも面会禁止している旨を事前に連絡されるよう合わせて
お願いします。